

氏名	大中一彌 (教授、准教授、専任講師)
こんな研究をしています	<p>【自分の研究の核心部分について書いてください】</p> <p>学問分野：政治学、政治思想 地域：フランス語圏。</p> <p>キーワード：シティズンシップ、ヨーロッパ、社会統合、グローバル化、移民</p>
こんな成果を挙げています	<p>【代表的な論文や著書を5～10点程度挙げてください。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マーガナル・マン論再考」『異文化』23号、2022年。 ・「黄色いベスト運動 — あるいは21世紀における多数派の民衆と政治」『対抗言論』法政大学出版局、2019年、254-289頁。 ・杉田孝夫・中村孝文編『市民社会』第八章 現代フランスの「スカーフ問題」における市民社会と国家 199-222頁 おうふう 2016年。 ・「移民社会の論じ方 — ジェラルール・ノワリエルにおける記憶と歴史 —」『思想』岩波書店 1096, 171-187頁 2015年。 ・『フランスという坩堝』 ジェラルール・ノワリエル 法政大学出版局 2015年(翻訳)
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス17世紀におけるいわゆる「古典主義」と、20世紀における「現代思想」のつながり（このテーマについては「パスカルにおける情念と政治 — アルチュセール研究の観点から —」『思想』岩波書店 1033, 51-75頁、をご参照ください） ・現代のポピュリズムにおける「人民」の観念（上記「黄色いベスト運動」で扱っているテーマです）
こんな授業を行っています	<p>担当科目：多言語社会論A・B</p> <p>①他の教員を指導教員として論文を準備されている大学院生や、科目等履修生、各種コンソーシアムから授業に参加される方に対しては、受講される方がこれまで抱えてきたのとは異なるものの考え方や文化に接する機会を提供しています。大学院生にふさわしい教養を身につけるための「入門」的側面を重視しています。</p> <p>②法政大学大学院国際文化研究科で私の研究指導を希望される方は、出願する以前の段階で、実用フランス語技能検定試験（仏検）で「準2級」以上、または、ヨーロッパ共通言語参照枠で「A2」以上を取得してください。</p>
学会や社会でこんな活動をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学出版局の理事長を現在つとめ、学術出版の困難さと意義を感じています。 ・2015年にパリ日本文化会館の招聘で客員教授を務めました。コロナ禍の現在、得難い体験だったとあらためて感じています。
研究分野の基礎文献を紹介します	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスにおける移民史については上記の『フランスという坩堝』をまずは読んでいただきたい。移民問題というとすぐにイスラームとの対比という論点に流れがちだが、19世紀以降の移民史の全体をおさえておく必要があります。 ・フランスとイスラームについては、Gilles Kepel, <i>Les banlieues de l'islam</i>, Seuil, 1987. が基礎文献のひとつ。各国や各組織の影響力争いがもつ政治的側面に気づかせる。